平成26年度全国がんプロ合同フォーラム

東北がんプロフェッショナル養成推進プラン

東北大学、山形大学、福島県立医科大学、新潟大学　共同プロジェクト

東北がんプロフェッショナル養成推進プラン（課題と目的）

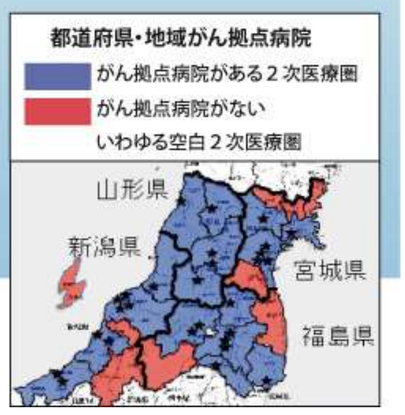
【対象地域】　宮城県、山形県、福島県、新潟県の４県

【対象地域の特徴と課題】

1. 広い面積（国土の11.3%、九州より広い）
2. 人口792万人（総人口の16分の1、四国の約2倍、北海道の約1.5倍）
3. 医師不足（10万人当り医師数176.7人、全国平均206.3人、九州・四国の4分の3）
4. がん診療連携拠点病院の空白2次医療圏が多い（９圏、下図参照）
5. 高い高齢化率（65歳以上は人口の平均26.5%、全国平均22.8%）→がん患者多い
6. 東日本大震災の大規模被災県と震災後の隣接支援県
7. がん研究者が少ない。臨床試験への参加少ない。

【課題解決のためのアクション】

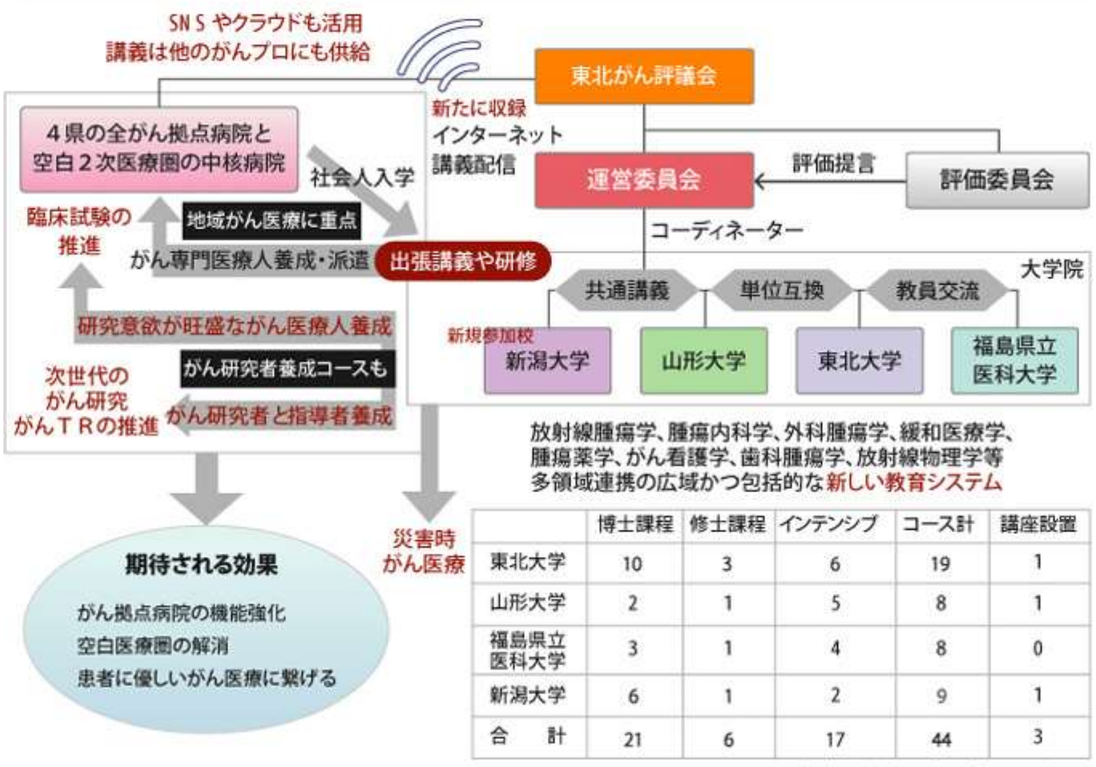
1. 社会人医療従事者のリクルートと再教育
2. 若手がん研究者のリクルートと先進的腫瘍学教育
3. 新しい教育システムの導入（新しいがんプロの必要性）



【目的】課題解決のため、東北がんプロフェッショナル養成推進プランを実施し、地域がん医療に貢献する優れたがん専門医療人養成に重点を置きながら、地域がん医療を改善する。

東北がんプロフェッショナル養成推進プラン（組織と効果）

【ミッション】1. 大学、地域、多職域が連携して地域のがん医療とがん研究を推進する。
2. がん医療に必要な学識と技能や国際レベルの臨床研究を推進する能力を育む。



	博士課程	修士課程	インテンシブ	コース計	講座設置
東北大学	10	3	6	19	1
山形大学	2	1	5	8	1
福島県立医科大学	3	1	4	8	0
新潟大学	6	1	2	9	1
合　計	21	6	17	44	3

赤字は従来のがんプロとの違い

本プランの成果は、各県のがん拠点病院の事業責任者、各職域の学識経験者、患者団体代表者等からなる評価委員で年１回進捗や効果を評価します。講座・コースや講義・研修の内容、講師陣の専門性、学生の入学・履修・修了状況、修了後の専門資格取得や就職状況等を評価し、運営委員会に提言します。この提言に基づき運営委員会は事業を改善します。

宮城・山形・福島・新潟４県のすべてのがん診療連携拠点病院・全がん教施設（含む大学）

■　大学、地域、多職種連携と地域がん医療推進

がん専門医療人および研究者の養成のため大学院に3講座42教育コースを新しく設置

◆東北大学
地域がん医療推進センター、医学物理士コース
◆山形大学
東北未来がん医療学講座、粒子線治療エキスパート医師育成コース
◆福島県立医科大学
放射線腫瘍学講座、腫瘍内科学講座
◆新潟大学
医学物理士養成・臨床研修コース.緩和医療学分野、腫瘍内科学分野が大学院教育を開始

がんの患者と家族のための研修会
「がんに振り回されないための患者力」
NPO法人宮崎がん患者共同勉強会理事長
押川勝太郎先生

山形県がん化学療法セミナー

宮城産科婦人科学会集談会

がん専門医療人材および教育マテリアルの提供

◆がん看護CNS養成・東北大学が26単位から38単位変更
◆４大学合同学生セミナー
◆がん拠点病院への専門医・医療スタッフ派遣
◆全国に教材DVDの送付
◆SNS,クラウドの活用とE-learning新規講義収録と他がんプロへの講義内容提供
◆地域・多職種・市民に対するセミナー、ワークショップ、研修会や講演会等主催
◆チーム医療、がん登録やがんの普及啓発活動

各大学におけるFD活動

◆外部講師を招聘し、ＦＤを3年間に計102企画
◆教員・その他職種スタッフ・地域医療施設従事者を交え述べ6700名以上が参加

気仙沼緩和ケア
実践コニュニティカンファレンス

震災後石巻赤十字病院視察

東日本大震災を経験した各県多職種の医療者が災害時がん医療のノウハウ、新しい地域がん医療モデルを提示

◆第3回国連防災世界会議パブリックフォーラムでシンポジウムを開催
◆新設の東北大学災害科学国際研究所と新潟大学医学部災害医療教育センターの協力下で災害時地域がん医療の研修会を開催

空白二次医療圏の解消に向けた活動

◆がん診療連携拠点病院やがん診療連携拠点病院空白2次医療圏の中核病院における腫瘍専門医（放射線治療医、腫瘍内科医および緩和医療医）の常勤医数や専門医以外のメディカルスタッフは複数の病院で50%以上増加した（東北がんプロの成果と思われる）
◆空白2次医療圏は既に３つ減少、平成27年度にさらに１つ減じる予定

■　がん研究推進

学生の研究成果発表・受賞多数

◆国内学会268件、海外学会28件、論文（和文）52編、論文（英文）30編

がん共同研究

◆NPO法人東北臨床腫瘍研究会と協力し、共同で臨床試験を開始した

山形大学キャンサーボードの実績を論文化

◆平成19年度から臓器・診療科横断的キャンサーボードを平成19年度に導入、年間延べ5,000人以上が参加、約400件の症例検討を行い、その成果を英語論文２編（IJCO 2013 , J Radiat Res 2014)に発表

東北がんプロHP　http://www.ganpro.med.tohoku.ac.jp/

平成26年度全国がんプロ合同フォーラム

東北がんプロフェッショナル養成推進プラン

東北大学、山形大学、福島県立医科大学、新潟大学　共同プロジェクト

東　北　大　学

講義「外科と薬物療法」
東北大学医学系研究科
地域がん医療推進センター
森隆弘先生

症例検討会

がん専門医療人の育成

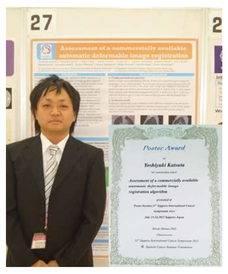
医学物理セミナー

がん薬物療法チーム研修
◆東北地方がん拠点病院の医師・看護師・薬剤師３名を１チームとしたチーム医療研修を実施

各種共催セミナー計56回
◆参加者述べ3500名以上

拠点病院空白区および遠隔地でのコメディカルインテンシブコース
◆平均88.61%が今後の医療に役立つと評価

研究成果発表
国内学会発表：137、海外学会発表：14、
和文論文：11、英文論文：15



がん看護専門看護師7名養成
CNSの診断・治療能力向上のため26単位→38単位

福　島　県　立　医　科　大　学

臨床腫瘍セミナー

「がん哲学外来とがん哲学教室」
金沢大学附属病院　麻酔科蘇生科
山田圭輔　先生

市民公開講座

吉田富三記念 福島がん哲学外来5周年　市民公開シンポジウム
「明るくがんと生きる～上手ながんとの付き合い方～」

「血液疾患診療で出会う感染症」
循環器・血液内科学講座
野地秀義　先生

- 定期Cancer Boardの開催
- 地域がん看護実践のリーダーとして活躍するがん看護専門看護師の養成
- がん医療啓発活動として市民も含めたがんセミナー実施.
  これまで2,000名以上が参加

山　形　大　学

がん専門医療人の育成

「第１回 ESTRO school in Japan」に参加して

2014年5月16-18日、「第1回　ESTRO school in Japan」が日・韓放射線腫瘍学会(JASTRO・KOSTRO)の共催で、東京都一ツ橋、新緑の皇居を望むパレスサイドビルにて開催され山形大学から7名が参加しました。
　テーマは「Target Volume Determination from Image to Margins」。
放射線治療では「放射線をどこに当てるか」は「外科手術でどこを切るか」ということに匹敵するほど重要です。この標的体積の同定・決定を講義・実習形式で学ぶもので、対象は脳腫瘍・頭頸部癌・肺癌・前立腺癌です。
　「宿題」の実症例画像に事前に輪郭入力、小グループ実習でコンセンサスを形成し全体講義で解答となります。実習討議で、これほどまでに個人差・施設間差が出るものかと実感、修正できたことが収穫でした。また講義で診断の大切さが強調されることも印象的で、日本の放射
線腫瘍医はまず画像診断をしっかり学んでから治療に入るのが強みだと感じました。
　質疑応答含め全編英語漬けの3日間、来年の第2回は韓国での開催となります。

講義の様子

参加した教員及び学生

東北がんプロフェッショナル養成推進プラン「4大学合同学生セミナー」

日　時：平成２６年１２月６日（土）
場　所：山形国際ホテル
参加者：５３名
目　的：大学間連携による教育システムの充実

第1部　特別講演の様子

第２部　教育講演の様子

学生との意見交換の様子

第３部　学生による成果発表の様子

山形大学重粒子線がん治療装置研究棟の開設

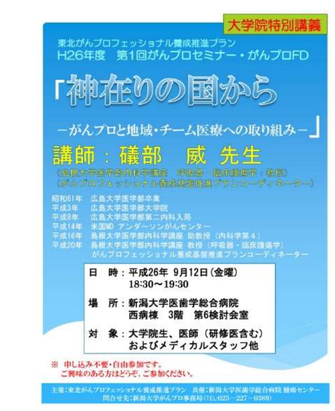
山形大学で設置を計画している「次世代型重粒子線がん治療施設（山形モデル）」の特徴である「重粒子線がん治療装置の省エネルギー化」について共同研究するための研究棟を開設

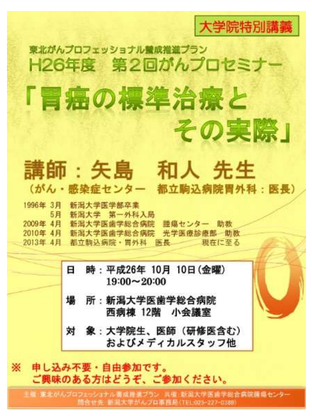
平成２６年８月４日
研究棟内覧会の様子。次世代型重粒子線がん治療装置の研究開発のコンセプトや進捗状況等について説明が行われた。

研究棟に設置してある研究機器

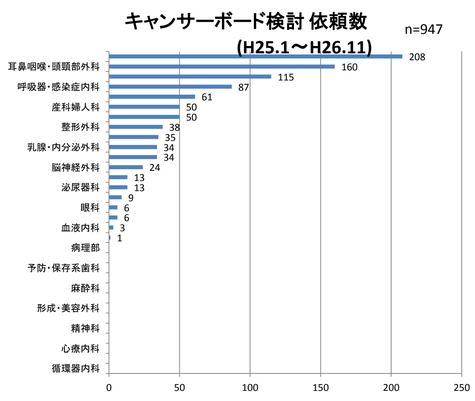
新　潟　大　学

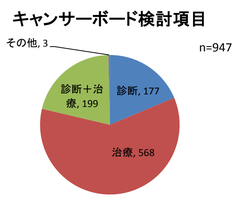
がんプロセミナー

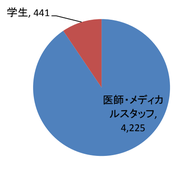




キャンサーボード







東北がんプロHP　http://www.ganpro.med.tohoku.ac.jp/